

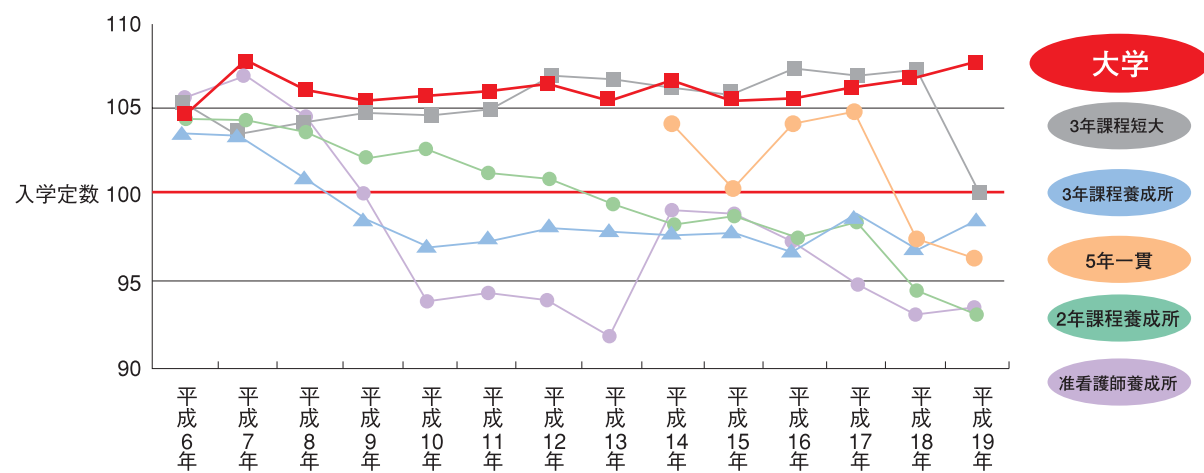
8 看護基礎教育4年制大学化に向けて

課題と対応

課題

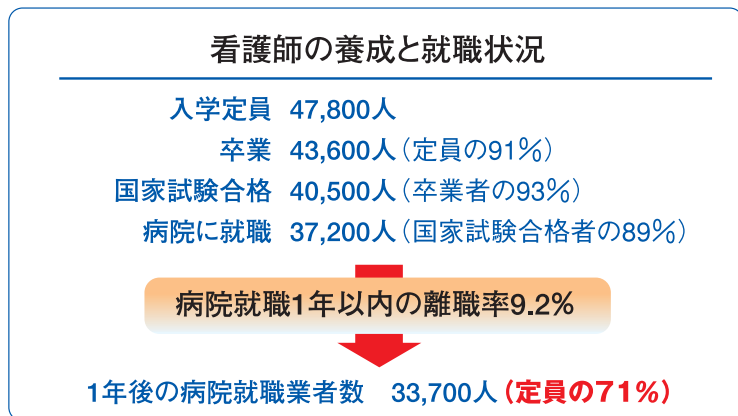
- 高卒女子の10人に8人は進学する時代です。またそのうち7割は短大や大学に進んでおり、学生の進学志向が高まっています。
しかし看護師の養成課程はまだ、全体の2割程度がようやく大学になった段階です。年少人口の減少の影響もあり、3年課程養成所や短期大学では、学生の確保が難しくなっており定員割れが続いています。

学校種別の入学定数充足状況の推移



- また、3年課程養成所では入学者の9割しか卒業に至っておりません。国家試験合格率が93%、そして病院に就業した新卒看護師の離職率が9.2%ですから、就業1年の時点で働いている看護師は、学年定員の7割程度に減ってしまうのが現状です。

新任職員の早期離職



※看護師は3年課程・2年課程(大学・短大含む)の2007年3月卒業状況による概算
『看護関係統計資料集』(日本看護協会出版会)および厚生労働省看護発表資料による高等学校5年一貫校(定員約3400人)については卒業業者数等が統計資料集に掲載されていないため除外
©(社)日本看護協会

対応

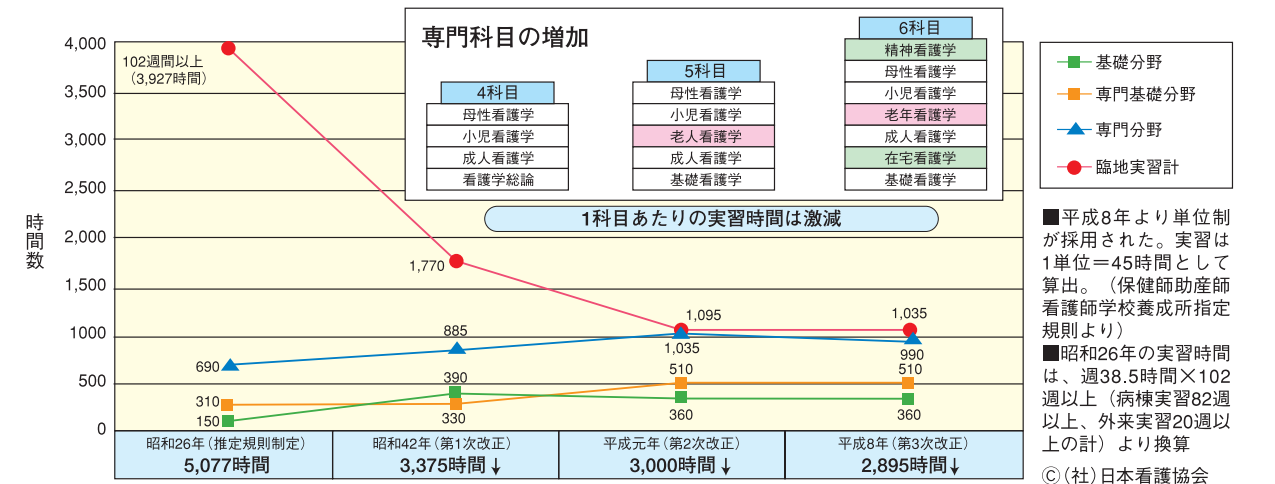
その一方で社会的には、世界一の速さで高齢化が進んでいる我が国での医療の高度化に対応できる専門職として、看護職員の一層の資質向上が求められています。
このような状況から、厚生労働省の「看護基礎教育のあり方に関する懇談会」は、先ごろ、看護基礎教育の延長を図り、将来的には4年制大学に移行する方向性を打ち出しました。

学習課題の広がりとお習時間の短縮の問題

これまでの看護基礎教育カリキュラム改正では、専門科目が拡充される一方、実習時間が大幅に削減されてきました。

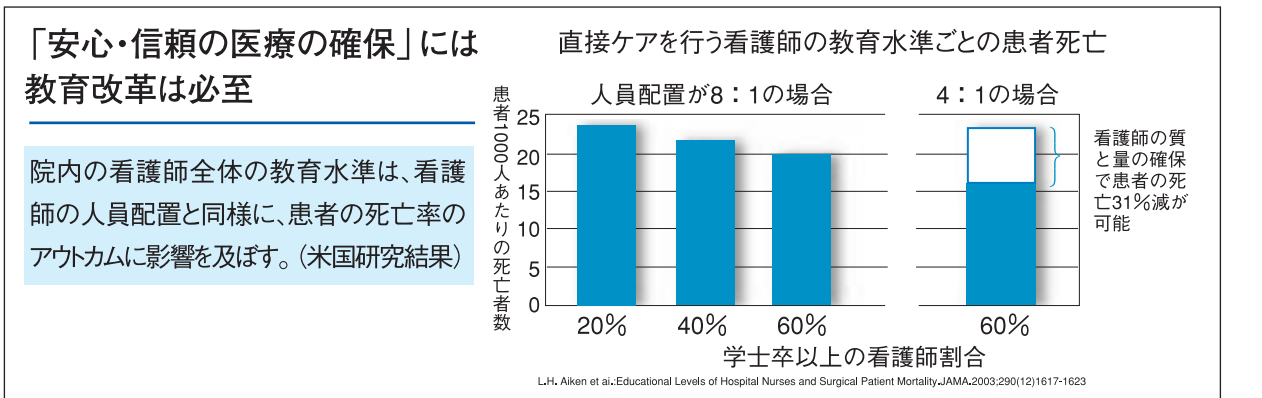
教育時間の不足

看護師3年課程教育時間の激減



このため、新卒看護師は、「配置された部署の専門的な知識・技術が不足している」、「医療事故を起こさないか不安」といった、もっぱら看護の実践力に係ることで悩んでいます。

これらの問題を解決するには、看護基礎教育のあり方を根幹から見直し、医療チームの一員としても期待され、また高度な専門性が発揮できる看護職を育てていくための、組織的な取り組みを段階的に進める必要があります。



日本看護協会は、看護師の基礎教育の4年制大学化を実現するために、看護師国家試験受験資格を修業年限4年の大学の看護学履修者に改めること、安定的な看護職員の需給を確保したうえで移行を行うことを提案しています。